授業科目名	保育者論		
授業担当者名	渡辺　桜		
単位数	2単位	開講期（年次学期）	2年次後期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	232-2CHI1-03
備考	幼児保育専攻 実務経験のある教員担当科目		
授業のテーマ及び到達目標	本講義の到達目標は、保育者の役割・倫理・制度的な位置づけ,保育者同士の連携・協働について学ぶことである。また、保育者の専門性について遊び保育論をもとに理解を深め、理論に基づいた資質向上とキャリア形成への学びを深める。		
ディプロマポリシーとの関連	「思考力・判断力・創造力」◎、「意欲・態度」○		
授業の概要	近年の社会背景、子育て家庭の状況を踏まえ、保育者に求められる役割、倫理について学ぶ。 また、具体的な保育援助のあり方として、集団保育における幼児の主体的な遊びを保障する人的・物的環境の相互規定性について具体事例をもとに考察し、理解を深める。 ＜実務経験と本科目との関連＞ 保育士としての実務経験により、保育を取り巻く課題と具体的な事例を通して、保育者の役割、倫理、制度的な位置づけについて理解を深める。		
学生に対する評価の方法	授業態度(40%)、授業内容の理解度把握(30%)、提出物(30%)などにより総合評価する。		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法 等）	第01回　授業の目的と講義内容の概要説明。参考書の紹介。 第02回　保育者の役割・倫理 　おはなしの実演　グループディスカッション 第03回　遊び保育の重要性 養護と教育の一体性　保育者の制度的位置づけ 　おはなしの実演　　　グループディスカッション 第04回　遊び保育の構成の基盤　集団保育における保育者と子どもの関係Ⅰ 第05回　集団保育における保育者と子どもの関係Ⅱ　あつまり場面のビデオ視聴→遊び状況の読み取り 第06回　集団保育における保育者と子どもの関係Ⅲ　あつまり場面のビデオ視聴→環境・援助・幼児理解　　グループディスカッション・発表 第07回　集団保育における保育者と子どもの関係Ⅳ　指導案作成・発表準備 　グループワーク 第08回　指導案作成・発表資料作成・発表準備　グループワーク→発表リハーサル 第09回　保育職への理解を深める　ゲストスピーカー 第10回　発表と発表に対するコメントⅠ 第11回　発表と発表に対するコメントⅡ 第12回　発表と発表に対するコメントⅢ 第13回　集団保育における保育者のモデル性　保育者の連携・協働 第14回　授業内容の理解度把握 第15回　授業内容の理解度把握フィードバック　保育者の資質向上とキャリア形成 　半期の授業を振り返る 　(学生受講結果アンケートの実施)		
使用教科書	渡辺桜編「保育者論」（みらい） 厚生労働省編「保育所保育指針解説」（フレーベル館） 文部科学省「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館） ※授業時必ず持参すること		
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	教科書と並行し、現在の保育や子どもについての理解を深めるので、いろいろな新聞社の記事やニュースに目を通しておく。 新聞は事務室で閲覧できます。(週60分) 指導案作成に向け、グループ内で情報共有を図り、授業外でも各自で準備すること。(7回～9回　週60分)		

授業概要(シラバス)

授業科目名	社会的養護内容		
授業担当者名	石垣　儀郎		
単位数	1単位	開講期（年次学期）	3年前期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	232-2WEL2-02
備考	幼児保育専攻 実務経験のある教員担当科目		
授業のテーマ及び到達目標	ヒューマンケア学部の教育目標と対人援助（保育士、児童指導員など）において社会に貢献できる人材となるため、下記の3つの到達目標を掲げる。 1.国（子ども家庭庁）が掲げる社会的養護の政策を理解する。 2.社会的養護の実態と内容を理解し、実践応用可能な知識を身に着ける。 3.演習を通して、現場（臨床）実践に活用可能な技術（スキル）を身に着けることができる。 4.社会的養護における子ども虐待の防止と家庭支援について理解する。		
ディプロマポリシーとの関連	「思考力・判断力・創造力」◎、「知識・技能」〇		
授業の概要	授業の構成、並びに展開は次の通りである。 社会的養護における「子ども」の実態を把握し、政策と事実を把握する。次に、把握した事実をもとに、社会的養護の「内容」を学習し理解する。このことを通して、被虐待児童や発達障害児童など、とりわけ専門的支援と対応が必要な子どもに対して、どのような「介入＝支援」が有効であるのかを演習を通して学習する。 ＜実務経験と本科目との関連＞ 児童養護施設および、児童心理治療施設の基幹的職員、児童指導員としての実務経験により、福祉の現場で実際に起こりうる必要な対応や対策を本授業で具体的に検討する。社会資源の活用方法と実態について理解を深める。		
学生に対する評価の方法	レポート（30%）、授業態度（30%）、理解度確認（40%） ※授業態度は、授業形態が演習のため積極的に取り組む姿勢を評価します。 レポートは授業日に提出する。ただし、毎授業ではない。その内容は、授業内で取り扱った事柄を中心に自分で考えた意見を述べることを心がけてほしい。授業態度は、参加の意欲を評価の中心とする。グループワークや意見表出の際、積極的に取り組むことが望ましい。		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法 等）	第01回　社会的養護内容における「子ども」の支援　1.権利擁護 第02回　社会的養護内容における「子ども」の支援　2.生存と発達の保障 第03回　保育士の倫理と責務 第04回　児童養護の体系と児童福祉施設の概要　1.施設養護 第05回　児童養護の体系と児童福祉施設の概要　2.家庭的養護 第06回　被虐待児童の理解と支援　1.虐待の実態 第07回　被虐待児童の理解と支援　2.被虐待児童の支援 第08回　前半のまとめと理解度確認 第09回　発達障害児童の理解と支援　1.発達障害児童の実態 第10回　発達障害児童の理解と支援　2.発達障害児童の支援 第11回　社会的困難を抱える「子ども」支援の方法　1.社会資源の活用 第12回　社会的困難を抱える「子ども」支援の方法　2.社会的治療の方法・実践 第13回　社会的困難を抱える子どもを育てる「親」への支援の方法　1.社会資源の活用 第14回　社会的困難を抱える子どもを育てる「親」への支援の方法　2.社会的治療の方法・実践 第15回　理解度確認と全体のまとめ、学生受講結果アンケートの実施		
使用教科書	「援助者を目指す人の社会福祉」：石垣儀郎（創成社）		
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	シラバスに沿って授業展開を行うため、次の授業までに事前学習を行う。授業外学習の方法は「課題」を提示するので「思考：考えること」「自分の意見を持つこと」を意識して取り組んでほしい。専門用語などは事前に調べて授業内で理解すると良い。また、演習問題の多いテキストを採用しているのでよく読んで検討することを勧めます(週90分)。		

授業科目名	幼児・児童教育課程論		
授業担当者名	津金　美智子		
単位数	2単位	開講期（年次学期）	2年次前期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	232-1CHI1-01
備考	実務経験のある教員担当科目		
授業のテーマ及び到達目標	幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園等における全体的な計画・教育課程及び指導計画の基本原則、その編成及び作成の実際について学ぶことを目標とする。そのために、それらの基準である「幼稚園教育要領」等の基本理念、「幼児期に育みたい資質・能力」「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」「主体的・対話的で深い学び」の理解を深める。さらに幼児期にふさわしい生活や遊びの展開とともに小学校教育への接続を見通した教育課程の編成及び実施、実践後の反省・評価を通してさらなる改善を図り、保育・教育活動の質の向上を目指す「カリキュラム・マネジメント」への理解を深める。		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」◎　「思考力・判断力・創造力」〇		
授業の概要	幼児期の教育の目的・目標の達成に向けた全体的な計画及び教育課程の編成、それらに基づく指導計画の作成の意義や原則等、基本的な考え方について学習する。 計画的・組織的に編成する手順、教育課程に基づいた指導計画の作成と展開、指導の過程における幼児理解に基づいた評価・改善等、カリキュラム・マネジメントの考え方について学習する。 ＜実務経験と本科目との関連＞ 幼稚園教諭としての実務経験を生かし、幼児教育を行う施設の具体例を通して、全体的な計画や教育課程編成の考え方や方法、それに基づく指導計画（長期・短期)の作成、カリキュラム・マネジメントの在り方について理解を深める。		
学生に対する評価の方法	授業及び協議等への参画態度（主体性・協働性）30% 授業内容の理解度をチェックする振り返り　30% 指導計画作成・レポート等　40% 以上３点から総合的に評価を行う。		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法 等）	第01回　オリエンテーション（授業の目標・内容等の概要説明） 幼児期の教育の基本「環境を通して行う教育」「遊びを通した総合的な指導」 第02回　「小学校学習指導要領」「幼稚園教育要領」等の基本理念 （「社会に開かれた教育課程」「学校教育において育みたい資質・能力」 「主体的・対話的で深い学び」） 第03回　幼児期の教育と小学校教育との接続 （「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」①-⑤） 第04回　幼児期の教育と小学校教育との接続 （「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」⑥-⑩） 第05回　全体的な計画・教育課程の役割及び編成上の基本事項 「カリキュラム・マネジメント」の考え方 第06回　教育課程に基づく指導計画の作成の基本的な考え方 第07回　幼保連携型認定こども園・保育所等における全体的な計画 第08回　指導計画作成上の基本的な事項について 第09回　指導計画作成上の留意事項について 第10回　小テストとフィードバック 第11回　短期指導計画作成の実際　（週案作成の実際） 第12回　短期指導計画（週案）の作成・協議 第13回　短期指導計画作成の実際　（日案作成の実際） 第14回　短期指導計画（日案）の作成・協議 第15回　幼児理解に基づく評価　まとめ　学生受講結果アンケートの実施		
使用教科書	『教育課程論』　(中央法規出版株式会社) 『幼稚園教育要領解説』文部科学省　（フレーベル館） 『保育所保育指針解説』厚生労働省編　（フレーベル館） 『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』　内閣府　文部科学省　厚生労働省　(フレーベル館)		
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	教育課程の編成・指導計画の作成には、その基準である「幼稚園教育要領」等の理解が必須であることから、幼稚園教育要領等の解説を熟読すること。(1時間) 指導計画の作成には幼児理解が基となることから、子どもケアセンター等でのボランティアを通して幼児の言動に潜む「幼児なりの見方・考え方」「幼児の遊びを通した学びの姿」を実際に捉えておくこと。また、具体的な遊びのイメージがもてるよう、幼児と一緒に関わる場面も積極的につくること。		

授業科目名	保育実習指導Ⅰ		
授業担当者名	加藤　望、鈴木　聡美、杉江　栄子		
単位数	2単位	開講期（年次学期）	1年次後期～2年次
教員担当形態	オムニバス （主担当：保育所 加藤、施設 石垣）	ナンバリングコード	232-3PRA2-08
備考	幼児保育専攻　2025年度生 実務経験のある教員担当科目		
授業のテーマ及び到達目標	保育実習の意義と目的を理解し、保育所や児童福祉施設で実地実習を円滑に進めるための知識・技術を習得することで、主体的に実地実習で学ぶべき内容や学ぶ方法を体得する。実地実習を行うにあたって、自己の達成課題を明確にして臨むことを目的とする。また、実習後には、自己の保育や子どもとのかかわり、指導担当保育者からの指導助言を振り返り、今後の実習に向けての自己課題を確認する。		
ディプロマポリシーとの関連	「思考力・判断力・創造力」○「協働力」◎		
授業の概要	保育実習Ⅰの実地実習に向けて、保育所及び幼保連携型認定こども園や居住型児童福祉節等の役割を理解し、基礎的知識と心構えを学び、実習に必要な知識・技術を深める。実習記録や保育計画の必要性を知り、具体的記述方法を学び、教員からの個別指導を通してさらに理解を深める。 ＜実務経験と本科目との関連＞ 保育士としての実務経験により、保育を取り巻く課題と具体的な事例を通して、保育者の役割について理解を深める。		
学生に対する評価の方法	授業態度（出席回数）50% レポート等提出物（提出状況及び内容）50% 再評価は実施しない。		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法 等）	【保育所】（担当：加藤望、杉江栄子、鈴木聡美） 《1年次後期　事前指導　5回》 ・保育実習の意義、目的の理解 ・実習記録の意義、目的の理解 ・基本的な実習記録の作成方法 ・保育所及び幼保連携型認定こども園等実習施設の理解 ・保育施設見学の実施（学外教育） 《2年次前期　事前事後指導　10回》 ・保育実習の内容と実習の心得 ・観察実習を通した子ども理解の方法について ・指導計画の作成方法 ・自己の達成課題の明確化及び実習目標の作成 ・指導案および実習目標の個別指導 ・事後レポートの作成 ・事後面談による実習の振り返り ・実習報告会の実施 【施設】（担当：石垣儀郎、杉江栄子、横井直子） 《2年次後期　事前事後指導　15回》 ・施設実習の内容と意義の理解 ・自らの実習課題の明確化 ・実習記録の意義、記録方法の理解 ・実習施設への理解 ・実習施設および利用児・者についての理解 ・実習報告会を通した事後指導 ・学生受講結果アンケートの実施		
使用教科書	《1年次後期・2年次前期》 厚生労働省編「保育所保育指針解説」＜平成30年3月＞（フレーベル館） 内閣府 文部科学省 厚生労働省著「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」＜平成30年3月＞（フレーベル館） 保育所実習の手引き，実習記録簿 《2年次後期》 愛知県保育実習連絡協議会「福祉施設実習」編集委員会編「保育士を目指す人の福祉施設実習」（株式会社みらい） 施設実習の手引き，実習記録簿 その他、必要に応じレジメ等を配布する。		
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	既習の教科全体の知識・技能を基礎とし、応用的実践力を身に付けるようにする（週60分程度）。		

授業概要(シラバス)

授業科目名	保育実習指導Ⅲ		
授業担当者名	横井　直子、石垣　儀郎、杉江　栄子		
単位数	1単位	開講期（年次学期）	3年次後期～4年次前期
教員担当形態	複数（主担当：石垣儀郎）	ナンバリングコード	232-2PRA3-14
備考	幼児保育専攻 実務経験のある教員担当科目		
授業のテーマ及び到達目標	実地実習前は、実地実習を円滑に進めていくための知識、技術を習得し、実習において学ぶべき内容および自己の達成課題を明確にする。実地実習後は、実習体験をふり返り深化させる。		
ディプロマポリシーとの関連	「協働力」◎　「思考力・判断力・創造力」〇		
授業の概要	1. 実地実習に向けて、自己の課題を明確化する。 2. 保育現場で求められる計画について演習を通じて理解を深める。 3. 実習施設で起こりうる事案を想定した実践的な事前学習を行う。 4. 施設実習で学んだことを共有化し、保育専門職として必要な知識・技術・倫理観を高める。 ＜実務経験と本科目との関連＞ 児童養護施設、および児童心理治療施設における児童指導員・基幹的職員・家庭支援専門相談員、並びに個別対応職員としての実務経験を生かし、福祉の現場で実際に起こりうる事例を課題としてとり上げる。必要な対応や対策について症例を基に、本授業で検討する。また、個別の支援計画の作成を通して、ケースマネジメントのあり方について理解を深める。		
学生に対する評価の方法	授業態度（60%）、レポート等提出物（40%）などにより総合的に評価する。 レポートは授業日に提出する。ただし、毎授業ではない。その内容は、授業内で取り扱った事柄を中心に自分で考えた意見を述べることを心がけてほしい。授業態度は、参加の意欲を評価の中心とする。グループワークや意見表出の際、積極的に取り組むことが望ましい。 再評価は実施しない。		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法 等）	【3年次後期】 第01回　オリエンテーション 第02回　今後の課題の明確化①発達障害対応について 第03回　今後の課題の明確化②被虐待対応について 第04回　実地実習を想定した保育の計画立案①被虐待・発達障害対応についてのケアプラン作成 第05回　実地実習を想定した保育の計画立案②養護・障害対応についてのケアプラン作成 第06回　実習的学びの振り返り（情報交換会） 【4年次前期】 第07回　施設実習の意義と心構え 第08回　実習目標について・実習記録の書き方 第09回　施設実習に向けて必要な知識・援助・態度の学び①被虐待・発達障害系 第10回　施設実習に向けて必要な知識・援助・態度の学び②養護・障害系 第11回　施設実習で起こりうる事例の検討①養護・発達障害の検討 第12回　施設実習で起こりうる事例の検討②精神遅滞・障害の検討 第13回　事後指導について 第14回　直前指導 第15回　報告会　学生受講結果アンケートの実施		
使用教科書	「施設実習の手引き」（4年次授業時に配布）		
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	既習の教科全体の知識・技能を基礎とし、応用的実践力を身につけるようにする（週90分）。 グループ指導等を通じて、実習に向けての実践的学びを深める。		

授業科目名	幼小接続論		
授業担当者名	津金　美智子		
単位数	2単位	開講期（年次学期）	3年前期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	232-2CHI2-04
備考	幼児保育専攻 実務経験のある教員担当科目		
授業のテーマ及び到達目標	教育は、教育基本法や学校教育法、こども基本法等が掲げる目的や目標の達成を目指し、子ども一人一人の生涯にわたる発達や学びの連続性を見通して行われるものである。特に、義務教育開始前の５歳児と義務教育の初年度となる小学校１年生の２年間は、生涯にわたる学びや生活の基盤をつくる重要な時期である。 こうしたことから、令和５年２月、中央教育審議会初等中等教育分科会「幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会」における審議がまとめられ、この２年間を「架け橋期」とし、幼児教育の施設類型や学校種を超えて保育・教育の円滑な接続を図る「幼保小の架け橋プログラム」が示された。このプログラムでは、幼児教育では遊びを通して小学校以降の学びの芽生えを培うこと、小学校ではその学びの芽生えをさらに伸ばしていくことで、「育みたい資質・能力」、その資質・能力の育成に向けた「主体的・対話的で深い学び」、「個別最適な学び」と「協働的な学び」の考え方を一貫してつなぐ必要性、重要性等が示された。 本科目では、この「幼保小の架け橋プログラム」の内容を通して、幼児期の自発的な活動としての遊びを通して育まれたことが、小学校における各教科等の学習に円滑に接続されるよう、カリキュラムの在り方や指導について考えることを目的とする。 ［到達目標］ ・幼児教育と小学校教育の円滑な接続の必要性について理解する。 ・幼児期の５歳児と小学校１年生の「架け橋期」におけるカリキュラムの在り方について考える。 ・子どもの発達や学びの連続性の姿を見通し、円滑な接続に向けた具体的な内容や方法について工夫する。		
ディプロマポリシーとの関連	「思考力・判断力・創造力」　◎　「協働力」　○		
授業の概要	①幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領(以下、３要領・指針)、及び、小学校学習指導要領における教育の目的や目標等における理念、及び、発達の特性に応 　じた指導の違いと共通性を知る。 ②幼児教育と小学校教育との連携や接続に関する歴史的背景や、現在の国の動向を知る。 ③令和５年２月に示された報告書「幼保小の架け橋プログラム」の審議内容について知り、幼保小の接続の重要性を考える。 ④「幼保小の架け橋プログラム」で示された手引き(初版)及び手引きの参考資料(初版)を理解する。 ⑤「幼保小の架け橋プログラム」を参考に、小学校・幼児教育施設において重視すべきことを理解する。 ＜実務経験と本科目との関連＞ 幼稚園教諭としての実務経験を生かし、実践事例等を通して、幼児期から児童期への発達や学びの連続性を見通した保育の展開、幼児教育と小学校教育との円滑な接続の在り方、「架け橋カリキュラム」等についての理解を深める。		
学生に対する評価の方法	（理解度確認やレポートの評価基準など） ・３要領・指針の理念を理解している。 ・幼保小の接続の必要性を幼児や児童の具体的な姿を通して理解している。 ・幼児期の終わりまでに育ってほしい姿、育みたい資質・能力について、幼児の姿を根拠にして伝えることができる。		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法 等）	第01回　オリエンテーション　なぜ、幼児教育と小学校教育の接続が必要か 第02回　３要領・指針における幼児教育の基本について　ー環境を通して行う教育・遊びを通した総合的な指導ー 第03回　　幼児教育と小学校教育の連携・接続に関する歴史的経過について 第04回　　３要領・指針の改訂(定)における幼小接続に関する変遷、及び、最近の動向 第05回　　幼保小の架け橋プログラムについて 第06回　　幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き、及び、手引きの参考資料について 第07回　　幼保小における「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」の共通理解について 第08回　　幼児教育から小学校教育へとつながる「資質・能力」について　-事例を通してー 第09回　　架け橋期のカリキュラムとスタート・カリキュラムについて　ー具体的なカリキュラムから学ぶー 第10回　　幼保小の接続の取組について　ー外部講師による幼稚園・小学校における取組ー 第11回　　架け橋期のカリキュラムについて 第12回　　遊びを通して育まれる学びを小学校の各教科等の学習へつなぐとは　ー幼児・児童の理解を通して- 第13回　　遊びを通して育まれる学びを小学校の各教科等の学習へつなぐとは　ー指導の具体を通してー 第14回　　授業内容の理解度確認　　振り返り 第15回　　まとめ　　今後の幼保小の円滑な接続に向けて　　　受講結果アンケートへの回答		
使用教科書	『幼児教育と小学校教育がつながるってどういうこと』　文部科学省　（東洋館出版社） 『幼稚園教育要領解説』　文部科学省　（フレーベル館） 『小学校学習指導要領解説　総則』文部科学省　（東洋館出版社） [参考図書・資料] 『教育課程論』(中央法規出版株式会社) 令和３年１月　「令和の日本型学校教育」の構築を目指して　～全ての子供たちの可能性を引き出す，個別最適な学びと，協働的な学びの実現～（答申） 令和５年２月　学びや生活の基盤をつくる幼児教育と小学校教育の接続について ～幼保小の協働による架け橋期の教育の充実～（幼児教育と小学校教育の架け橋特別委員会） 　　　　　　　　幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引き(初版) 　　　　　　　　　幼保小の架け橋プログラムの実施に向けての手引きの参考資料(初版) 令和５年10月　今後の幼児教育の教育課程、指導、評価等の在り方に関する有識者検討会最終報告 令和６年12月　初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について　（諮問） 等		
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	令和６年12月25日　「初等中等教育における教育課程の基準等の在り方について」諮問があり、その際、『「幼保小の架け橋プログラム」の成果と課題を踏まえつつ、幼児教育と小学校教育との円滑な接続の改善』について検討の必要なことが挙げられた。この諮問を受け、今後、中央教育審議会において、様々な審議が行われていくこととなる。 幼児教育・学校教育に関わる専門職業人として、幼保小の架け橋期の教育を考えることは必要不可欠なことと意識し、この審議の内容にも関心を高くもち、普遍的に重視すべきことを確実に理解すると共に、今後、重視しなければならないことは何か、自分なりに情報収集したり、調べたり、考えたりする。　（１時間以上）		

授業科目名	乳児保育演習		
授業担当者名	渡辺　桜		
単位数	1単位	開講期（年次学期）	2年次前期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	232-2CHI1-20
備考	幼児保育専攻 実務経験のある教員担当科目		
授業のテーマ及び到達目標	本講義の到達目標は、めざましい3歳未満児の心身の発達の特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。 具体的には、乳児保育の3つの視点、1歳以上3歳未満児の保育における5領域のねらいと内容、 養護と教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法や環境について具体的に理解する。 以上を踏まえた、3歳未満児における計画の作成について具体的に理解する。 ※「乳児保育」とは、3歳未満児を念頭に置いた保育を示す。		
ディプロマポリシーとの関連	「思考力・判断力・創造力」◎、「協働力」〇		
授業の概要	自分の要求を言葉で表現できない乳児期。泣く、笑う、体を動かす、ぐずるなどの表現を受け止め、代弁しながらあやす、なだめるという関わりが主となる。このような乳児期の発達過程の実際やそれに対する具体的援助や環境について学ぶ。 ＜実務経験と本科目との関連＞ 保育士としての実務経験により、3歳未満児の心身の発達の特性を踏まえた援助や関わり方について、保育者間の連携も含め具体的な事例を通して理解を深める。		
学生に対する評価の方法	授業態度(40%)、授業内容の理解度把握(30%)、提出物(30%)などにより総合評価する。		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法 等）	第01回　乳児保育を学ぶにあたって 授業の目的と講義内容の概要説明。参考書の紹介 乳児のスキンシップ遊び実演 第02回　乳児保育の意義Ⅰ 保護者の就労や女性の社会進出から乳児保育の重要性について考える 乳児のスキンシップ遊び発表 第03回　乳児保育の意義Ⅱ 乳児の発達を保障する環境と援助 乳児のスキンシップ遊び発表 第04回　個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的なかかわり 乳児のスキンシップ遊び発表 第05回　月齢別発達0・1歳児　ビデオ視聴　乳児のスキンシップ遊び発表 第06回　月齢別発達1・2歳児　ビデオ視聴　乳児のスキンシップ遊び発表 第07回　乳児保育の物的環境 安全と情緒の安定 生活の場、室内遊びの場、外遊びの場 乳児のスキンシップ遊び発表 第08回　乳児保育の人的環境 保育者と子どもの関係　子ども相互の関係　職員間のチームワーク 保育所・家庭・地域・社会との連携 乳児のスキンシップ遊び発表 第09回　赤ちゃんおもちゃ発表Ⅰ 第10回　赤ちゃんおもちゃ発表Ⅱ⇒学内展示⇒実習または子どもケアセンターで活用 赤ちゃんおもちゃは、各自で製作しておくこと 乳児の心身の発達を促し、安全・衛生面にも配慮したものであること 子どもケアセンターでのボランティア体験やセンターのおもちゃから ヒントをもらうとよい 第11回　実習での学びを振り返ろう 第12回　実習での学びを共有しよう　グループディスカッション 第13回　実習での学びを発表しよう　グループ発表 第14回　授業内容の理解度把握 第15回　授業内容の理解度把握フィードバック・授業のまとめと授業全体の振り返り (学生受講結果アンケートの実施)		
使用教科書	志村聡子編　「はじめて学ぶ乳児保育」（同文書院）　※1年次後期に使用した教科書です 厚生労働省編　「保育所保育指針解説」（フレーベル館）※授業時必ず持参すること		
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	教科書と並行し、新聞記事やニュースからも、現在の保育状況、子育て環境、乳児期の子どもについての理解を深めるので、いろいろな新聞社の記事やニュースに目を通しておく。 新聞は事務室で閲覧できます。(週60分) 赤ちゃんおもちゃ作成やスキンシップ遊びの発表に向け、自身が取り組む内容についての自主学習も進めておくこと。　(週60分)		

授業概要(シラバス)

授業科目名	教職入門		
授業担当者名	中村　恵美子		
単位数	2単位	開講期（年次学期）	1年次前期
教員担当形態	単独	ナンバリングコード	232-1PED1-01
備考	幼児保育専攻 実務経験のある教員担当科目		
授業のテーマ及び到達目標	教職は、人間の成長に携わる魅力的で重要な仕事である。教職の社会的意義や教員に求められる役割、使命、資質・能力について理解する。		
ディプロマポリシーとの関連	「知識・技能」◎、「思考力・判断力・創造力」〇		
授業の概要	授業は、初等教育についての具体的な事例を示し、実感性のある内容を扱うようにする。授業形態については、講義を中心としながらもペアで考えるなど対話を有効に持ちながら進める。内容としては、教員に求められる役割、使命、資質・能力についてつかみ、学級づくりや学習指導、生徒指導など各分野について、実体験を振り返りながら理解を深める。また、危機管理を含めたチーム学校としての教員の柔軟な対応について協議、考察をしていく。 ＜実務経験と本科目との関連＞ 小学校教諭の経験を活かし、学級経営におけるユニバーサルデザインや組織としての学校運営など具体的な事例をもとに対話的な学修を行う。具体的な事例を通して、教員の使命、これからの社会に求められる教員の姿を明確にする。		
学生に対する評価の方法	①授業への参画態度（20%） ②授業外課題レポート（30%） ③授業内容のまとめや振り返り及び授業内容の理解度（50%）		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法 等）	第01回　オリエンテーション 第02回　教員に求められる役割 第03回　教員の職務の全体像・組織 第04回　教員に求められる資質・能力、服務義務や身分 第05回　学級づくりや学級経営①（教育のユニバーサルデザイン） 第06回　学級づくりや学級経営②（教育のユニバーサルデザイン） 第07回　学習指導①（授業づくりの基本） 第08回　学習指導②（授業づくりの留意点） 第09回　生徒指導 第10回　チーム学校運営（組織としての学校の在り方） 第11回　学校の管理と運営について（危機感の在り方） 第12回　子ども理解、保護者との関わり方、教員の研修 第13回　プログラミング学習など今後の教育の動向① 第14回　プログラミング学習など今後の教育の動向② 第15回　まとめ、理解度確認、受講結果アンケートの実施		
使用教科書	テキスト：文部科学省「小学校学習指導要領解説　総則編」　東洋館出版 参考書・参考資料等:資料を適宜配付		
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	授業外課題レポートづくり（70分×２）　実施時期については、講義にて連絡する。 グループ討議を行う場合には事前に課題を提示し、そのための調査や自分の意見を明確にまとめておくなど予習が必要（週20分）		

授業概要(シラバス)

授業科目名	教育実習指導　〔幼・小〕　(幼免のみの学生)		
授業担当者名	渡辺　桜、津金　美智子、岡田　暁子		
単位数	1単位	開講期（年次学期）	2年次後期～3年次
教員担当形態	複数、クラス分け	ナンバリングコード	232-3PRA2-10
備考	幼児保育専攻、幼稚園教育実習指導用 ※2024年度入学生（幼免希望者のみ） 実務経験のある教員担当科目		
授業のテーマ及び到達目標	本講義の到達目標は、教育実習Ⅰ・Ⅱ（幼稚園）を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確にするとともに、実習体験を深化させることである。		
ディプロマポリシーとの関連	「思考力・判断力・創造力」○、「協働力」◎		
授業の概要	幼稚園教育実習を円滑に進めていくために、幼稚園教育実習の意義、記録や指導計画作成の考え方について再確認する。 ＜実務経験と本学科との関連＞ 幼稚園教諭としての実務経験により、幼稚園における教師と幼児とで織りなす園生活の具体を通し、実習への心構えや意欲を高めるとともに、幼稚園教諭に求められる資質能力の理解を深める。		
学生に対する評価の方法	授業態度(50%)、提出物(50%)などにより総合評価する。 欠席・提出期限が守れない等が3回になった場合は、原則実習を実施できない。 再評価は実施しない。		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法 等）	2年次後期：第1回～第8回 3年次前期：第9回～第15回 ■事前指導 第01回　幼稚園教育の基本と学校教育の始まりとしての幼稚園の役割　幼小の接続 　　　　幼稚園実習の意義と目的　幼稚園実習の目的 第02回　観察について−目的・観点・記録の取り方− 第03回　参加について−方針・記録の取り方−　菱野幼稚園の概要について 第04回　実技指導(クラス別) 第05回　菱野幼稚園訪問　観察 第06回　菱野幼稚園訪問　参加 第07回　個別指導　菱野幼稚園の観察実習記録 第08回　菱野幼稚園の観察記録についての学びを深める 第09回　個人票等園へ送付する書類についての事務連絡 　　　　部分・１日実習について−内容・指導計画の作成−研究保育について−内容・ 　　　　指導計画の作成− 第10回　実習目標について、園へ送付する書類回収指導計画の具体例から、幼児の年齢 　　　　や時期に合った指導計画の作成及び援助の在り方を学ぶ 　　　　幼稚園実習に際しての基本的な心構え、態度 第11回　個別指導　部分指導計画 第12回　クラス内意見交換会 ■事後指導 第13回　幼稚園実習の反省会 第14回　実習成果を踏まえての実践発表 　　　　実践発表に対するグループ討議及び質疑応答 第15回　幼稚園実習全体のまとめ		
使用教科書	文部科学省「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）、幼稚園実習の手引き、記録簿ファイルは毎回持参すること。		
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	各自で手引きを熟読し、実習に備える。(週60分) 指導案等は、幼児の年齢毎に準備しておく。(週60分)		

（子どもケア学科幼児保育専攻・実務経験のある教員担当科目）

授業科目名	教育実習指導　〔幼・小〕　(幼免と小免の学生)
授業担当者名	渡辺　桜、津金　美智子、松崎　利美、中村　恵美子、岡田　暁子
単位数	1単位 / 開講期（年次学期）: 2年次後期～3年次
教員担当形態	複数、クラス分け / ナンバリングコード: 232-3PRA2-10
備考	幼児保育専攻、教育実習〔幼・小〕指導用 ※2024年度入学生（幼免・小免希望者） 実務経験のある教員担当科目
授業のテーマ及び到達目標	本講義の到達目標は、教育実習Ⅰ・Ⅱ〔幼・小〕を円滑に進めていくための知識・技術を習得し、学習内容・課題を明確にするとともに、実習体験を深化させることである。
ディプロマポリシーとの関連	「思考力・判断力・創造力」〇、「協働力」◎
授業の概要	教育実習Ⅰ・Ⅱ〔幼・小〕を円滑に進めていくために、それぞれの教育実習の意義、記録や指導計画作成の考え方について再確認する。 ＜実務経験と本科目との関連＞ 幼稚園教諭としての実務経験により、幼稚園における教師と幼児とで織りなす園生活の具体を通し、実習への心構えや意欲を高めるとともに、幼稚園教諭に求められる資質能力の理解を深める。
学生に対する評価の方法	授業態度(50%)、提出物(50%)などにより総合評価する。 欠席・提出期限が守れない等が3回になった場合は、原則実習を実施できない。 再評価は実施しない。
授業計画（回数ごとの内容、授業技法 等）	2年次後期：第1回～第10回 3年次前期：第11回～第18回、第20回～第22回 3年次後期：第19回、第23回 第01～03回、第05～08回、第11～14回、第16回、第20～22回：岡田・渡辺・津金 第4回、第09～10回、第15回、第17～19回、第23回：松崎・中村 ■事前指導 第01回　幼稚園教育の基本と学校教育の始まりとしての幼稚園の役割　幼小の接続 　　　　幼稚園実習の意義と目的　幼稚園実習の目的 第02回　観察について-目的・観点・記録の取り方- 第03回　参加について-方針・記録の取り方-　菱野幼稚園の概要について 第04回　〔小〕教育実習の内容について（学習指導、生徒指導、学級経営、校務分掌等について） 第05回　菱野幼稚園訪問　参加 第06回　菱野幼稚園訪問　観察 第07回　個別指導　菱野幼稚園の観察実習記録 第08回　実技指導(クラス別) 第09回　〔小〕学級経営と児童理解 第10回　〔小〕授業づくり・授業の評価、学習指導案の作成 第11回　菱野幼稚園の観察記録についての学びを深める 第12回　個人票等園へ送付する書類についての事務連絡 　　　　部分・１日実習について-内容・指導計画の作成-研究保育について-内容・指導計画の作成- 第13回　実習目標について、園へ送付する書類回収指導計画の具体例から、幼児の年齢や時期に合った指導計画の作成及び援助の在り方を学ぶ 　　　　幼稚園実習に際しての基本的な心構え、態度 第14回　幼稚園教育要領解説から幼稚園教育の要点を学ぶ 　　　　SNSとの付き合い方について部分指導計画 第15回　〔小〕教育技術①（話法、板書、学習形態、ICTの活用等） 第16回　クラス内意見交換会 第17回　〔小〕教育技術②（学習過程、授業展開、学習規律や環境構成等） 第18回　〔小〕学習指導案の個別指導 第19回　〔小〕学習指導案（修正案）の作成 ■事後指導 第20回　幼稚園実習の反省会 第21回　実習成果を踏まえての実践発表 　　　　実践発表に対するグループ討議及び質疑応答 第22回　幼稚園実習全体のまとめ　学生受講結果アンケートの実施 第23回　〔小〕教育実習の事後指導（書類やお礼状の作成）・反省会
使用教科書	〔幼〕文部科学省「幼稚園教育要領解説」（フレーベル館）、幼稚園実習の手引き、記録簿ファイルは毎回持参すること。 〔小〕文部科学省「小学校学習指導要領解説　総則編」（東洋館出版社）、教育実習の手引き、教育実習記録
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	〔幼〕各自で手引きを熟読し、実習に備える。(週60分)　指導案等は、幼児の年齢毎に準備しておく。(週60分) 〔小〕単元指導計画と学習指導案の作成（週90分）

授業科目名	保育・教職実践演習(幼・小)		
授業担当者名	加古　有子、細溝　典彦		
単位数	2単位	開講期（年次学期）	4年次後期
教員担当形態	オムニバス、クラス分け	ナンバリングコード	232-3CHI3-29
備考	幼児保育専攻 ※前半と後半で保育・教職入れ替わる。 実務経験のある教員担当科目		
授業のテーマ及び到達目標	教師は、教育の専門家として絶えず研究と研修に励み、その職責の遂行に努めなければならない。つねに優れた専門性と豊かな人間性を身に付ける努力が必要である。これまで、専門科目や教職科目等で学んだ知識・技能の深化・統合・補完を図ることと、集団活動や実践演習を通して生きて働く指導方法・指導技術の習熟及び教育の今日的課題に対処できる実践能力を身に付けることを到達目標とする。		
ディプロマポリシーとの関連	「思考力・判断力・創造力」○、「協働力」◎		
授業の概要	この授業では、①教職に関する科目、②専門教科に関する科目について前半・後半に分かれて実施する。演習を中心とした授業のため、事例研究、子どもケアセンターにおける親子ふれあい遊びの実践、模擬授業、グループ討論、ロールプレイング、プレゼンテーション等の体験活動を重点的に実施する。評価シートにより、到達度を確認する。状況に応じて、内容の繰り返しや変更もありうる。 ＜実務経験と本科目との関連＞ 教諭や教育センターでの教育相談経験を生かして、特に学級経営や生徒指導の事例研究において具体的な事例を示し、これまで学んできた専門教科と教職教科の知識・技能を活用し、実践力の強化を図る。		
学生に対する評価の方法	授業への関心・意欲・態度、課題レポート、発表の内容及び授業内容の理解度把握などで総合的に評価する。教職領域５０点、専門領域５０点とする。授業内容の理解度把握の欠席は原則として認めないので注意すること。		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法 等）	第01回　ガイダンス及びリフレクション　〈全員〉 　　　　授業の位置づけ、進め方の説明、履修カルテの資料整理、課題の整理 （以下、教職関係） 第02回　学校組織と教師の職務について（講義・事例研究・グループ討議） 第03回　児童生徒理解と学級経営について(講義・演習) 第04回　教育問題の実践的対応(生徒指導の事例研究)-①　（グループ討議・演習） 第05回　教育問題の実践的対応(生徒指導の事例研究)-②　（ロールプレイング・ディベート等） 第06回　教育課題の実践的対応(時事問題の事例研究)-③（グループ討議・演習） 第07回　事例研究のまとめ及び授業内容の理解度把握 第08回　教職実践演習授業のまとめ(振り返り）と評価（講義とグループ討議） （以下、保育関係） 第09回　「遊び保育とは」集団保育における乳幼児の自発性を保障する環境と援助についてグループ討議 第10回　模擬保育またはケアセンターでの実践活動に向けた指導案作成・教材研究 第11回　模擬保育、またはケアセンターでの実践 第12回　模擬保育またはケアセンターでの実践について、同調性と応答性の視点より討議 第13回　12回の討議を踏まえたグループ発表・質疑応答・・保育現場における諸課題について 第14回　授業内容の理解度把握及び授業のまとめ 　　　　ポートフォリオファイルの回収・点検 第15回　保育実践演習授業のまとめ（振り返り）と評価、学生受講結果アンケートの実施		
使用教科書	資料等適宜配付 (参考図書は演習の中で適宜紹介）		
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	授業内で示された課題について自学自習し、提出を指示された課題については、期限を厳守すること。また、今までの学習の整理をしておくこと。保育・教育現場における今日的課題についても新聞などで情報収集してノート等にまとめておくこと（週６０分程度）。		

授業概要(シラバス)

授業科目名	保育・教職実践演習(幼・小)
授業担当者名	渡辺　桜、細溝　典彦
単位数	2単位
開講期（年次学期）	4年次後期
教員担当形態	オムニバス、クラス分け
ナンバリングコード	232-3CHI3-29
備考	幼児保育専攻 ※前半と後半で保育・教職入れ替わる。 実務経験のある教員担当科目
授業のテーマ及び到達目標	教師は、教育の専門家として絶えず研究と研修に励み、その職責の遂行に努めなければならない。つねに優れた専門性と豊かな人間性を身に付ける努力が必要である。これまで、専門科目や教職科目等で学んだ知識・技能の深化・統合・補完を図ることと、集団活動や実践演習を通して生きて働く指導方法・指導技術の習熟及び教育の今日的課題に対処できる実践能力を身に付けることを到達目標とする。
ディプロマポリシーとの関連	「思考力・判断力・創造力」〇、「協働力」◎
授業の概要	この授業では、①教職に関する科目、②専門教科に関する科目について前半・後半に分かれて実施する。演習を中心とした授業のため、事例研究、子どもケアセンターにおける親子ふれあい遊びの実践、模擬授業、グループ討論、ロールプレイング、プレゼンテーション等の体験活動を重点的に実施する。評価シートにより、到達度を確認する。状況に応じて、内容の繰り返しや変更もありうる。 ＜実務経験と本科目との関連＞ 教諭や教育センターでの教育相談経験を生かして、特に学級経営や生徒指導の事例研究において具体的な事例を示し、これまで学んできた専門教科と教職教科の知識・技能を活用し、実践力の強化を図る。
学生に対する評価の方法	授業への関心・意欲・態度、課題レポート、発表の内容及び授業内容の理解度把握などで総合的に評価する。教職領域５０点、専門領域５０点とする。授業内容の理解度把握の欠席は原則として認めないので注意すること。
授業計画（回数ごとの内容、授業技法 等）	第01回　ガイダンス及びリフレクション　〈全員〉 授業の位置づけ、進め方の説明、履修カルテの資料整理、課題の整理 （以下、教職関係） 第02回　学校組織と教師の職務について（講義・事例研究・グループ討議） 第03回　児童生徒理解と学級経営について(講義・演習) 第04回　教育問題の実践的対応(生徒指導の事例研究)-①　(グループ討議・演習) 第05回　教育問題の実践的対応(生徒指導の事例研究)-②　(ロールプレイング・ディベート等) 第06回　教育課題の実践的対応(時事問題の事例研究)-③（グループ討議・演習） 第07回　事例研究のまとめ及び授業内容の理解度把握 第08回　教職実践演習授業のまとめ(振り返り）と評価（講義とグループ討議） （以下、保育関係） 第09回　「遊び保育とは」集団保育における乳幼児の自発性を保障する環境と援助についてグループ討議 第10回　模擬保育またはケアセンターでの実践活動に向けた指導案作成・教材研究 第11回　模擬保育、またはケアセンターでの実践 第12回　模擬保育またはケアセンターでの実践について、同調性と応答性の視点より討議 第13回　12回の討議を踏まえたグループ発表・質疑応答・・保育現場における諸課題について 第14回　授業内容の理解度把握及び授業のまとめ ポートフォリオファイルの回収・点検 第15回　保育実践演習授業のまとめ（振り返り）と評価、学生受講結果アンケートの実施
使用教科書	資料等適宜配付 (参考図書は演習の中で適宜紹介)
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	授業内で示された課題について自学自習し、提出を指示された課題については、期限を厳守すること。また、今までの学習の整理をしておくこと。保育・教育現場における今日的課題についても新聞などで情報収集してノート等にまとめておくこと（週６０分程度）。

授業概要(シラバス)

授業科目名	保育・教職実践演習(幼・小)		
授業担当者名	渡辺　桜、中村　恵美子		
単位数	2単位	開講期（年次学期）	4年次後期
教員担当形態	オムニバス、クラス分け	ナンバリングコード	232-3CHI3-29
備考	幼児保育専攻 ※前半と後半で保育・教職入れ替わる。 実務経験のある教員担当科目		
授業のテーマ及び到達目標	教師は、教育の専門家として絶えず研究と研修に励み、その職責の遂行に努めなければならない。つねに優れた専門性と豊かな人間性を身に付ける努力が必要である。これまで、専門科目や教職科目等で学んだ知識・技能の深化・統合・補完を図ることと、集団活動や実践演習を通して生きて働く指導方法・指導技術の習熟及び教育の今日的課題に対処できる実践能力を身に付けることを到達目標とする。		
ディプロマポリシーとの関連	「思考力・判断力・創造力」〇、「協働力」◎		
授業の概要	この授業では、①教職に関する科目、②専門教科に関する科目について前半・後半に分かれて実施する。演習を中心とした授業のため、事例研究、子どもケアセンターにおける親子ふれあい遊びの実践、模擬授業、グループ討論、ロールプレイング、プレゼンテーション等の体験活動を重点的に実施する。評価シートにより、到達度を確認する。状況に応じて、内容の繰り返しや変更もありうる。 ＜実務経験と本科目との関連＞ 教諭や教育センターでの教育相談経験を生かして、特に学級経営や生徒指導の事例研究において具体的な事例を示し、これまで学んできた専門教科と教職教科の知識・技能を活用し、実践力の強化を図る。		
学生に対する評価の方法	授業への関心・意欲・態度、課題レポート、発表の内容及び授業内容の理解度把握などで総合的に評価する。教職領域５０点、専門領域５０点とする。授業内容の理解度把握の欠席は原則として認めないので注意すること。		
授業計画（回数ごとの内容、授業技法 等）	第01回　ガイダンス及びリフレクション　〈全員〉 授業の位置づけ、進め方の説明、履修カルテの資料整理、課題の整理 （以下、教職関係） 第02回　学校組織と教師の職務について（講義・事例研究・グループ討議） 第03回　児童生徒理解と学級経営について(講義・演習) 第04回　教育問題の実践的対応(生徒指導の事例研究)-①　(グループ討議・演習) 第05回　教育問題の実践的対応(生徒指導の事例研究)-②　(ロールプレイング・ディベート等) 第06回　教育課題の実践的対応(時事問題の事例研究)-③（グループ討議・演習） 第07回　事例研究のまとめ及び授業内容の理解度把握 第08回　教職実践演習授業のまとめ(振り返り）と評価（講義とグループ討議） （以下、保育関係） 第09回　「遊び保育とは」集団保育における乳幼児の自発性を保障する環境と援助についてグループ討議 第10回　模擬保育またはケアセンターでの実践活動に向けた指導案作成・教材研究 第11回　模擬保育、またはケアセンターでの実践 第12回　模擬保育またはケアセンターでの実践について、同調性と応答性の視点より討議 第13回　12回の討議を踏まえたグループ発表・質疑応答・・保育現場における諸課題について 第14回　授業内容の理解度把握及び授業のまとめ ポートフォリオファイルの回収・点検 第15回　保育実践演習授業のまとめ（振り返り）と評価、学生受講結果アンケートの実施		
使用教科書	資料等適宜配付 (参考図書は演習の中で適宜紹介)		
自己学習（予習・復習等の内容・時間）	授業内で示された課題について自学自習し、提出を指示された課題については、期限を厳守すること。また、今までの学習の整理をしておくこと。保育・教育現場における今日的課題についても新聞などで情報収集してノート等にまとめておくこと（週６０分程度）。		